

この機関紙は赤い羽根共同募金 配分金により発行しています。

■私の物語

■ 県社協TOPICS

新会長就任のごあいさつ

会長 入江 武信兵庫県社会福祉協議会



しました。よろしくお願い申し上げます。 このたび、吉本知之前会長の後を受け、兵庫県社会福祉協議会の会長に就任

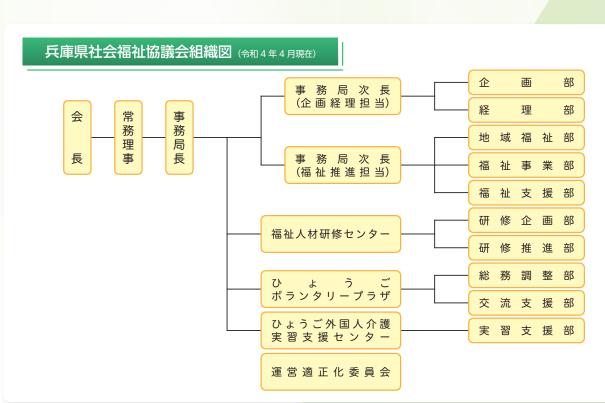
しています。「ひきこもり」「ヤングケアラー」などの社会的孤立や生活困窮の課題が深刻化「ひきこもり」「ヤングケアラー」などの社会的孤立や生活困窮の課題が深刻化「長引くコロナ禍の影響から、地域でのつながりが希薄化し、「8050問題」

り組みを行っています。 支援や政策提言活動、災害ボランティア活動支援など幅広い地域福祉推進の取支援や政策提言活動、災害ボランティア活動支援など幅広い地域福祉推進の取かへんネット)、人材確保・育成や外国人技能実習生への支援の他、権利擁護かへんネット)、人材確保・育成や外国人技能実習生への支援の他、権利擁護かへんネット)、人材確保・育成や外国人技能実習生への地域公益活動(ほっと本会では、生活福祉資金の特例貸付や社会福祉法人の地域公益活動(ほっと

の実現につながるものです。 お会は、兵庫県と同じく県域組織ではありますが、まさに地域福祉推進のプ のまちづくがある「貧困をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」など のまちづくり」を推進してまいります。共生のまちづくりに向けた取り組みは、 のまちづくり」を推進してまいります。共生のまちづくりに向けた取り組みは、 本会は、兵庫県と同じく県域組織ではありますが、まさに地域福祉推進のプ

た取り組みを推進してまいりたいと思います。の地域福祉をすすめる団体・県民の皆さまと協働し、共生のまちづくりに向けの地域福祉をすすめる団体・県民の皆さまと協働し、共生のまちづくりに向け昨年、本会は創立70周年を迎えました。今後とも本会の会員をはじめ県内

皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。





SPECIAL EDITION

令和4年度 一つながりで笑顔輝く 一つながりで笑顔輝く 一の取り組み

昨年、創立70年を迎えた兵庫県社協では、"つながりで笑顔輝く 共生のまちづくり"を基本目標に据えた中期計画「2025年計画」を策定しました。

県民・関係者と共に進める行動目標「協働推進目標」と、県社協自体の事業体系「アクションプラン」で構成される2025年計画を踏まえ、さらには新型コロナウイルスを巡る動向や国の政策などを勘案しながら、県社協は令和4年度の事業計画を策定しました。

今号では、昨今の情勢も交えつつ、県社協が取り組む新年度事業の概要をお伝えします。

写真上から

感染予防に配慮しながら、久しぶりに再開したふれあいサロン(市川町) 福祉の仕事の魅力・やりがいを発信(福祉の就職総合フェアにて) 社会福祉法人連絡協議会が地域活動の一助にと実施した「オンラインツールの使っませれば)

福祉関連施策の充実に向けた、社会福祉政策の提言活動(兵庫県議会にて)



`````````````







ます。 題が浮き彫りになり、複雑化・深刻化してい地域では生活困窮や社会的孤立などの生活課地域では生活困窮や社会的孤立などの生活課新型コロナウイルスの影響が長期化する中、

事業の重点化が図られています。 事業の重点化が図られています。 事業の重点化が図られています。 この情勢を反映して、厚生労働省の令和4

県社協の重点的な取り組み令和4年度

度事業を計画しました。せ、以下4つの重点的な取り組みを柱に新年中期計画「2025年計画」とも照らし合わり組織では、国などの政策動向、さらには

①コロナ禍における全県的な

祉法人、NPO、行政などには、培ってきた 地域づくりを目指すものです。社協、社会福 持てる力を引き出せる(=エンパワメント) 状態にある人を支えるものではありません。 この体制整備につながる事業の一つ「重層的 題の改善・解決に向けて、各市町域では「包 づくり、誰もが参加・活躍できる場づくりの 実践を生かして、つながりを絶やさない地域 活躍できる場を地域に生み出すこと。 そして 支えられる」という関係性を越えて、 支援体制整備事業」は、単に専門職が困難な 括的な支援体制の整備」が求められています。 に協働で取り組むことが期待されます。 支援、アウトリーチによる継続的な支援など 一人一人の生きづらさに寄り添い、「支える コロナ禍で顕在化した孤立や生活困窮の課 参加・

推進を図ります。制整備事業を含む包括的な支援体制の整備の換や実践事例の交流を通して、重層的支援体体制づくりセミナー」などを開催し、情報交にれを踏まえて県社協では、「包括的支援

地域公益活動が各地で生まれています。県社人連絡協議会(ほっとかへんネット)による夫に富む住民主体の地域活動や、社会福祉法社会全体がウィズコロナを探る中で、創意工社会全体がウィズコロナを探る中で、創意工社の金体がウィズコロナを探る中で、創意工社会全体がウィズコロナを探る中で、創意工法の観点から、地域では各種行事や交流す事た、令和2年以降を振り返ると、感染症

生のまちづくりの全県的な推進に努めます。うごの福祉」などで各地の活動を発信し、共どを発信する「えんだより」や、機関紙「ひょ協では、生活支援コーディネーターの実践な

償還管理・相談支援の仕組みづくり②新型コロナウイルス特例貸付の

和4年3月末時点)。 総額782億円に上る貸付を行いました(令ロナウイルス特例貸付では、約16万5千件、年3月から実施している生活福祉資金新型コ受けた人の生活を支える事業として、令和2 収入の減少などコロナ禍で経済的な影響を

相談支援体制の構築を進めます。 区町社協や自立相談支援機関などと連携しての暮らしの再建や自立を支えられるよう、市理に取り組むと同時に、貸付を利用した世帯理、は協は、今後長期にわたり適切な償還管

福祉のしごとのイメージアップ ③福祉・介護人材の確保・育成・定着、

ライン就職説明会に新たに取り組みます。として、プロモーションビデオの作成やオン題です。県社協では、福祉の仕事の魅力発信題がする場合では、福祉人材の確保は重要な課値が、高齢・障害・児童などの分野を問わず、福

る登録支援機関としての活動も新たに始めてに加え、特定技能に移行した外国人を支援す外国人の介護人材については、技能実習生





今年度も、各地でつながり、支え合う ための実践が生み出されていきます

④大規模災害に備えた支援体制づくり

豪雨災害など大規模災害の発生時には、

日

の支援ネットワークづくりを進めます。 祉チーム(DWAT)」の活動に参画・協力し、 県社協ではボランテイア団体などへの活動 頃からの地域の支え合いの力が問われます。 んネット) 各地の社会福祉法人連絡協議会 える体制づくりに取り組みます。 成研修などにより災害ボランティア活動を支 成や、災害ボランティアコーディネーター また、兵庫県が設置を進める「災害派遣福 とも連携しながら全県的な災害時 (ほっとかへ 養 助

などを新たに開催し、 的な人材育成を促す 対象にした「組織マネジメント研修(基礎講

現場のマネジメントを担う管理職

実践研修)」や、

「職場研修推進セミナー」 各施設・事業所の主体

福祉人材の育成・

八材確保に努めます。

県社協「2025年計画」と令和4年度の取り組み

- ▶基本目標 「つながりで笑顔輝く 共生のまちづくり」
- 協働推進目標 広く県民・関係者とともに"オールひょうごで進める行動目標"
 - 一人ひとりの尊厳が守られるまちづくり
 - 多様性を認め合い、"自分らしさ"が発揮できるまちづくり
 - ③ 誰もが参加・参画し、多様なつながりのあるまちづくり
 - みんなの暮らしを包括的に支えるまちづくり

地域福祉の推進基盤を担う市町社協への支援 アクション1

■包括的支援体制づくりセミナー、生活支援コーディネーターなどの実践事例の動画配信

アクション2 権利擁護を基盤とした包括的な相談支援

■新型コロナウイルス特例貸付の償還管理、兵庫県権利擁護・成年後見推進会議

社会福祉法人の経営基盤強化と地域公益活動への支援 アクション3

■社会福祉法人経営強化検討委員会、社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット)活動支援事業

アクション4 福祉人材の確保・定着と外国人介護技能実習生への支援

■オンライン就職説明会、福祉・介護のプロモーションビデオの作成、特定技能外国人への支援

福祉専門職の育成支援 アクション5

■組織マネジメント研修、職場研修推進セミナー、研修実施にかかる関係機関等情報交換会

幅広い主体や社会資源がつながる地域づくり活動支援 アクション6

■中間支援活動助成、地域づくり活動事業助成(NPO法人等向け)

大規模災害に備えた支援体制づくり アクション7

■大規模災害ボランティア活動応援プロジェクト、災害派遣福祉チーム(DWAT)

組織基盤強化(組織体制の強化、調査研究・情報発信、職員育成、財政基盤強化)

■共生のまちづくり推進フォーラム、兵庫県への政策提言



E

日本に暮らす外国人は約280万人とされ、今や外 国人との共生は、まちづくりを考える際の重要な マです。今回は、国際交流と多文化共生 のまちづくりを目指して平成元年から活動 「三田市国際交流協会(以下、「SIA*」) を紹介します。

X SIA: Sanda International Association

国際交流から の幅を広げて

根の交流や広報が中心でした。 国際理解や親善を趣旨とした草の ソテンズ市※⁻との姉妹都市提携 SIAは、 やがて日系人など市内に暮らす 三田市とブルーマウ 当初の活動は、

外国人の増加に伴い、支援の一環

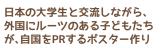
ルや、 理解しやすい「やさしいにほんご. が寄せられ、外国人が直面しがち の取り消しを心配したケースなど から来た人が直面した近隣トラブ た曜日にゴミを出す習慣が無い国 国人相談窓口を設けました。 な相談を受け始め、平成13年に外 顔なじみになるにつれてさまざま で日本語教室「日本語サロンさん な課題が見えてきました。また、 た」 をスタート。 日本語教室では SIAの相談窓口には、 日本人との離婚で在留資格 決まっ

そのような時期を経た今年3月、

※1:オーストラリア南東の自然豊かな都市 さも見えてきました。

外国人の暮らしを支える

生活上の課題を抱えた外国人が訪 られた一方、三田市社協の窓口に 響を受けた外国人は少なくありま ていました。 れ、どのような支援が可能かを探っ も生活困窮をはじめ、さまざまな せん。SIAに多くの相談が寄せ ルスの影響で孤立し、経済的に影 令和2年以降、新型コロナウイ



文化・習慣の違いを理解する大切

を活用したコミュニケーションや



外国人の支援を語り合った 「社会福祉×多文化共生連携セミナー」

取材を終えて

外国人に優しいまちは、みんなにとって優し いまちです。言葉や文化の違いを認め合い、困 りごとを受け止められる地域づくりに向けた SIAと市社協の協働の今後が楽しみです。

ます。 味がある人・団体を含めた交流会 ら定期的に設けています。 や講演会、視察なども予定してい からSIAと社協は、 相互の強みを生かし合えたらとい SIAの「外国人とのつながりや セミナー参加者や多文化共生に興 う気運が高まりました。この流れ 祉の専門性と支援ネットワーク」、 相談窓口の経験」と、社協の「福 セミナーの企画や準備を通じて゛ 連携セミナー」を開催しました。 を考える「社会福祉×多文化共牛 公益財団法人PHD協会とSIA への支援を検討する場を4月か 分野横断で外国人支援 緒に外国 また、

外国人が暮らしやすいまちを協働 域の今後の姿を思い描きます。 暮らしやすいまちになれば」と地 で目指すことで、三田がみんなに - 外国人は地域で共に暮らす存在! SIA副会長の寿賀素子さんは

○三田市国際交流協会

所在地 ▶ 三田市駅前2-1 まちづくり協働センター内 (キッピーモール6F)

○三田市社会福祉協議会

所在地 ▶ 三田市川除675番地 三田市総合福祉保健センター内

あなたのまちの

社協;舌動

共生のまちづくりに 向けて、市町社協が 取り組むさまざまな 活動を紹介します。



今回、紹介するのは

新温泉町社会福祉協議会

20796-99-2488

新温泉町社協

検索



山あいの集落の地域活動に寄り添う

新温泉町の春来地区は、標高400mに位置する山間集落です。春来地区の住民が将来を見据えな がら取り組んできた地域活動とその広がり、そして活動をサポートする社協の取り組みを紹介します。

歴史ある春来地区のむらづくりと 見守り活動

春来地区では昭和50年代から過疎化への危機 感が高まり、将来の地域づくりに向けて「村づく り部会」を発足させました。集落のさまざまな課 題を話し合ってきた歴史の中、一例として、平成 11年に住民の出資で「そば処てっぺん」を開店 して運営を続けるなど、長年、団結してむらづく りに取り組んできた地域です。



割そばが「そば処てっぺん 自慢の一品です



「そば処てっぺん」の

そんな春来地区の冬は、家の明かりが遮られる ほどに積雪する日があります。外出が難しく孤立 しがちになることから互いの安否が心配になり、 区の福祉部会が中心になって見守り活動を開始。 やがて「給湯ポットの操作がわからない」「電球 交換が難しい」などの声も寄せられ、これを区民 と共有すると見守り活動に取り組む気運がさらに 高まりました。試行錯誤を重ね、今ではちょっと した手伝いをし合う関係も生まれるなど、きめ細 やかに活動しています。見守り活動は、いきいき

での取り組みにつながっていることが

素晴らしいと感じました。

困難をもたらすはずの雪が、住民の団 結や見守り活動を生み、そこから見え てきた課題を話し合うことで地域全体

サロンや清掃活動などとも相乗効果を生み、地域 の日頃の交流も活性化しています。

■ 今ある活動に寄り添いながらサポートする 町社協では、地域福祉推進計画において「地域 ささえあい隊」という生活課題や住民ができるこ とを話す場づくりを進めています。同社協の小南 かおるさんは、春来地区が積み重ねてきた取り組 みを大切にしたいと伝えつつ、計画の趣旨を説明 して意見交換を丁寧に重ねました。その結果、平 成30年に区民の意向を踏まえて福祉部会を地域 ささえあい隊に位置づけました。

ささえあい隊になったことで、春来地区と社協 とのやり取りが緊密になり、例えば、区民が気になっ ていた他地区の活動を社協が紹介するなど、地区 の活動をさらに応援できるようになりました。また、 サロンに医療職を招いたいきいき百歳体操の実施や、 災害時の要援護者マップ作りに挑戦するなど、地 域活動の幅も広がっています。小南さんは「今あ



見守りを兼ねた 配食活動では、 笑顔も届けています る活動に、自然な形で社 協が協力できるよう心掛 けました。今後も一緒に 地域福祉活動に取り組み たいです」と笑顔で語り ます。

活動のポイント

地域が積み重ねてきた歴史と 活動を尊重しながら、 -緒に新しい活動を 模索する



取材を

キラリ★社会福

社会福祉法人連絡会

暮らしを支える 地域公益活動を 紹介します。

検討していました。

ミ業や減収で食べ物に困っている住民を支 お米一合応援プロジェクト"

を開始しました。その後、

る「お米一合応援プロジェクト. に増え、同年6月に第1回目とな により生活費に関する相談がさら

平成29年9月に設立された「播磨町社会福祉法人連絡会(以下、連絡会)」は、 町内の全7法人が参画して活動しています。今回はコロナ禍で生活困窮に陥った 人を支援するために取り組んだ「お米一合応援プロジェクト」を紹介します。

> の中で取り組みを重ねて も実施するなどコロナ禍 年3月、令和4年3月に



する町民の声を受けて コロナ禍で生活に困窮

られていたことを会議で共有した ない」という相談が町社協に寄せ クを生かした具体的な取り組みを りして、社会福祉法人のネットワー 日の食べ物が無い」「お米が買え 状について説明を受けたり、「明 団体から職員を招いて播磨町の現 月には、生活困窮者の支援 の支援などについて協議を 害時の支援や生活困窮者へ 重ねています。 令和元年9

連絡会では、 設立後、

支え合いの輪を広げる "参加のしやすさ"

町社協の広報紙を通じて行いまし その名のとおり町内の住民にお米 です。呼び掛けは、特別養護老人 どでポスター掲示やチラシ配布 ホームや認定こども園、町社協な 一合以上の寄付を呼び掛けるもの お米一合応援プロジェクトは、 住民やサービス利用者とその 施設職員などから各施設の

てられます。



げています。今後は、夜間の子ど

生活困窮者への支え合いの輪を広

担当職員は、「お米一合という地

連絡会の事務局を担う町社協の

域の方が参加しやすい取り組みは

に新型コロナウイルスの感染拡大 そのような動きの中、令和2年

町内の幅広い世代の方々から寄せられた善意のお米

播磨町社会福祉法人連絡会

絡会の活動に今後も注目です。

を支え合いの力にして推進する連

の展開を見据えます。住民一人一 る活動先にも届けたいです」と次 もの居場所など、お米を必要とす

人の「できる範囲で、できること_

TEL:079-435-1712(代

事務局:社会福祉法人

播磨町社会福祉協議会

どに届けられ、 収入が減少した高齢者や外国人な まならないひとり親や子育て世帯 に仕分けられた後、自立相談支援 約260㎏ の寄付が見込まれて れ、今年は、 回収箱にたくさんのお米が寄せら 機関や町社協を通じて、 集まったお米は3㎏入りの袋 昨年と同じくらいの 食事の確保に役立 食事もま

います。

08

県内に拠点を置いて活動する自助グループを紹介します

セルフヘルプグループの



多胎児を育てる家族も 安心して子育てできる 社会になってほしい



芦屋ツインズ

双子や三つ子のような「多胎児」の親が、親同士だからこそ共感のできる場をつくる「芦屋ツインズ」。代表でご自身も双子の親である前田さんと、前代表で同じく双子の親である小松原さんにお話しを伺いました。

グループの概要

名 称 芦屋ツインズ ※芦屋市保健福祉センターで活動しています

定例のつどい開催日 毎月第1・第3水曜日 10:00~11:45



▲親も子も安心して集まれる場です

Q1. グループの立ち上げや ご自身が参加したきっかけは

A. 芦屋ツインズは、平成13年10月に 多胎児の親である先輩ママたちが中心 となって活動を始めた団体です。先輩ママが 職場復帰をしたり、子どもが保育園に入るな ど、状況に応じてリーダーが受け継がれ、今 は私がリーダーをしています。

私自身の参加のきっかけは、市が実施する「新生児訪問」の時に、「多胎児の親の集まりがあるよ」と担当の方に教えてもらったことでした。当時私は夫と一緒に参加しましたが、双子の親として同じ子育ての悩みを持つ先輩ママとの会話で気持ちが楽になり、「今後も参加したい」と思いました。私も小松原さんも県外に実家があり、気軽に悩みを打ち明けられる場も無いまま不安でした。そのような折に出会ったのが、芦屋ツインズでした。

Q2. 現在どのような活動に 力を入れていますか

A. ーつは、「定例のつどい」の開催です。コロナ禍で保健福祉センターが閉館した時期にはつどいを休止しましたが、開館されて以降は再開して現在に至ります。感染予防の面や子どもたちへの目配りなど、保健福祉センターの職員の方が支えてくださるおかげで、つどいでは安心して親同士で話ができます。双子の出生率が増加しているといわれる今の時代だからこそ、「一人が泣けばもう一人も泣いてしまう」「二人の子を見ながらの公園デビューが不安」という悩みや、「この商業施設は双子用の大きなベビーカーでも出掛けられるよ」などの情報を、多胎児の親同士で共有していきたいです。

もう一つは、市内の他の自主活動グループと一緒に企画・ 実施するイベントです。例えば、クリスマスツリーの工 作会や離乳食相談会などを合同で行いましたが、子ども が喜び、親には参考となるイベントができるよう、みん なで楽しんで企画しています。

Q3. 社会に望むことやグループの目標は何ですか

振り返ると、かつて私も小松原さんも、はじめてのつどいに気軽に参加できたからこそ先輩 ママたちと出会い、不安も軽くなりました。今後も芦屋ツインズを多胎児の親が気兼ねなく 立ち寄れる場にして、新しい仲間を歓迎していきたいです。







「思いを分かち合い、 社会に発信し続ける」

域福祉のキー や実践者・当事者らの エピソード・思いを紹介 していきます。

なかだ ち え 智恵海 中田 さん

特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター 代表

指し、大学院で社会福祉を学び始

その後、

地域福祉にお

いてセルフヘルプ活動を重視する

ルフヘルプグループの活性化を目

子どもが幼稚園生になると、

昭和52年 口唇口蓋裂の子を持つ親の会と出会う

平成8年 武庫川女子大学 助教授

「ひょうごセルフヘルプ支援センター」立ち上げ 平成13年 佛教大学 助教授を経て教授 (平成27年3月まで) 平成17年

あせらず、 やめず、 私の 地域に根差してつづけよう!

といわれる口唇口蓋裂※「という

私の子どもは、500人に1

始め、私に声を掛けてくれました。

大阪では平成5年に支援セン

ノ支援センターの立ち上げ準備を

″親の会″

との出会い

考えの教授が、

大阪でセルフへ

障害を持って生まれました。

ターが設立され、

私も相談員とし

て活動しましたが、兵庫県に住む

モット

したが、 セルフヘルプグル 支援センターを

ように社会の支えが必要だと感じ が広く知られ、もっと活動できる 会は、私の居場所で救いになりま 自分一人ではないと思えた親の 同時に、このような団体

> の政策などに関わらず、 は297団体に増えています。 協力のもと「ひょうごセルフヘル を抱き続け、 が必要だと考えました。 るよう、兵庫県にも支援センター 当時、紹介できたのは府内のグルー あり、支援センターが把握する団 立セミナーを開催しました。 セルフヘルプグループが活動でき 体数は設立当初の76団体から現在 プ支援センター」を立ち上げ、 プだけでしたが、地域に根差して 万からも多くの相談がありました。 その後、市町社協の働きかけも 平成13年に県社協の その思 セルフへ

きになれました。

害を隠さなくてもよいのだと前向

に正しく伝える大切さを学び、

学ぶだけではなく、

障害をわが子

のお母さん方が体験で得た知識を

情報も限られた時代、

を持つ子の

『親の会』に出会いま

応に悩んでいたところ、

同じ障害

変な顔と言われ始め、親として対 もが幼児期の頃、幼稚園や地域で

的な関わりは欠かせないと考えま ルプグループにとって社協の積極

らが社会に発信する活動を通じて 動を社会に浸透させてきました。 セルフヘルプグループの存在と活 を分かち合う場づくりや当事者自 社会を豊かにする存在です。 が成長しあう場であるとともに、 セルフヘルプグループはお互い 思い

> 持ちが社会に浸透すれば、 みんなが共に生きていくという気 振り返りながらそのように思いま セルフヘルプグループとの歩み 人が豊かな気持ちで生きていける。 上くちびるや上あごに割れがみられる生

らないとされますが、家族や周囲の人が 正しい治療を受ければほとんど障害は残 まれつきの障害。現在は、 が大切とされます。 障害を正しく理解し治療に協力すること 適切な時期に

ひょうご セルフヘルプ支援センター

TEL · FAX 078-452-3082 ※電話受付は月曜日10:00~16:00



URL

https://hyogo-self-help.jp/



著書や冊子の作成を通して、社会にセルフ ヘルプグループへの理解を広めてきました

意思決定支援のあり方を

壇いただき、重度障害者であって 利用者の権利を奪う側面もあるた 青木弁護士から、 見制度等における意思決定支援の すべきとの提言がありました。 人一人が大切にされる社会を目指 理解しあうことで、まちに住む一 めに支援者も一緒に考え、悩み、 も本人の望む暮らしを実現するた 長と淡路市社協の凪事務局長に登 める必要性を解説いただきました。 侵害が生じにくい地域づくりを進 利支援センター・副センター長の 担当者など46名が参加しました。 フォーラム」を開催。行政や社協 あり方を考える「権利擁護推進 3 月 24 日、 後半は、西宮市社協の清水副会 本来は限定的に運用し、 日弁連 高齢者・障害者権 県社協では、 成年後見制度は 権利

> との問題提起もされました。 るかを自身に問い直すことが大切 を支援者が徹底し、行動できてい

を共有する場となりました。 をいただき、意思決定支援の理念 の転換が求められる」とのまとめ を中軸に据えた、支援の考え方へ 先されがちだった。意思決定支援 は支援者側のケアのしやすさが優 学竹端准教授からは、「これまで コーディネーターの兵庫県立大



「本人を中心とした支援を現場でどのように実現するのか」を活発に議論

コロナ禍での地域福祉活動を 冊子のご紹介 県社協が発行し た

ターなどと協働してつくりあげた 域住民が生活支援コーディネー と集まりたい」という思いで、 ながりを切りたくない」「みんな 合い活動が停滞した一方で、「つ 福祉活動がたくさんあります。 みんなで振り返る「たちどまりの本 コロナ禍で地域の見守りや支え

けていますので、 づくりを進めるために作成されま 整理し、 がわナビ」で共有された気づきを ディネーターの情報交換会「えん 例を紹介し、さらには生活支援コー で県社協が発信してきた各地の事 庫えんだより」や「ひょうごの福祉 与えた影響を振り返りつつ、「兵 緒に取り組めるワークシートもつ した。冊子には専門職が住民と一 助になれば幸いです。 この冊子は、コロナ禍が地域に 今後のつながりある地域 地域福祉活動の

> しています。 側頭型認知症家族交流会」を開催 ンターでは、平成27年から「前頭 は未だ不十分です。このことか 頭側頭葉変性症」への社会の理解 ひょうご若年性認知症支援セ

知っていただきたいです。 員など多くの人に家族の思い 療・福祉の専門職、 に届けるために作成しました。 きなどを含む〝家族の声〟を社会 た悩みや不安、 この冊子は、 交流会で共有され 介護を通じた気づ 社協や行政職 医

前頭側頭葉変性症 家族の声

象に運営され、「前頭側頭型認知 症」や「意味性認知症」を含む「前 ルツハイマー型認知症」の方を対 各地の認知症家族会の多くは「ア

ました。そして、「本人のことを

い社会につながる視点も確認され 転換が図られ、誰もが暮らしやす

本人抜きに決めない」ということ

用の創出や、地域住民の価値観の

域で活躍する場を作ることで、

併せて、障害を持つ人たちが地



https://www.hyogo-wel.or.jp/about/research.php

両冊子は本会ホームページにも PDF ファイルで掲載しています

県社協職員異動・昇任

令和4年4月1日付

常務理事兼事務局長

・事務局部長 (県共同募金会派遣)

・事務局主任

· 企画部部長 (業務改善担当)

·地域福祉部長

・同 主事

尾山 健司 戸田 達男

生田 江利世 安並 剛志

福本 良忠

照田 詩乃 [新規採用]

・経営相談室長兼兵庫県福祉サービス運営適正化 委員会事務局長 野田 哲也 [新規採用]

·福祉支援部部長(生活福祉資金担当)

・同 副部長

・同 主事

・同 主事

岡地 茂 佐藤 哲也 細井 清花 [新規採用]

北野 全彦

髙橋 俊行

・福祉人材研修センター研修推進部副部長

・同 主事

・同 主事

納庄 良輔

藤本 優希 [新規採用]

・ひょうごボランタリープラザ所長 芳永 和之 今井 隆介

· 同 事務局長兼総務調整部長

総務調整部主任

井筒 隆久

・ひょうご外国人介護実習支援センタ 実習支援部長 梶本 出 [新規採用]

膱 退

令和4年3月31日付

• 事務局長 ・事務局部長 北村 悦伸 松本 博子

(県共同募金会派遣) ·地域福祉部主事

・福祉支援部主事

山下 美春 中井 郁

・ひょうごボランタリープラザ所長 高橋 守雄

事務局次長兼総務調整部長 西森 玲治

・ひょうご外国人介護実習支援センター

実習支援部長

草部 信男

計画的な研修参 こ活用ください 加 اتا

会長

·常務理事

あ

報などを掲載しています。 2022 画的な研修参加にご活用ください 事業所での研修計画の作成や、 職場研修アドバイザーに関する情 予定の研修とその概要、 ターでは、 という観点から、研修事業を実施 している兵庫県福祉人材研修セン 応した人材養成と地域福祉の推進 同冊子には、 福祉ニーズの質・量の増大に対 を作成しました。 冊子「研修のご案内 令和4年度に開催 実施時期、 法人

するとともに、

新会長に入江武信

氏

(前県福祉部長)

が就任しまし

併せて、

副会長兼常務理事の

常務理

(前県

知之氏が会長を退任し顧問に就任

長を6年にわたり務められた吉本

283回理事会を開催。

県社協会

社協

C は、

4

月

1

日

12

第

https://hfkensyu.com/ ダウンロ pdf/nenkan/nenkan.pdf ードはこちら (PDF形式

寄付 寄贈のお礼

温かな善意に対し 祉巡回車両の寄贈を頂きました。 日本様より、 し上げます。 本年3月、 市町社協に対する福 株式会社日立物流西 ここに感謝由

しました。

立ものづくり大学校校長) 事兼事務局長に尾山健司氏 福田好宏氏の退任に伴い、

が就任

株式会社 あまの創健

健康管理・健康管理用品・環境衛生

- ●医薬品・計量器具・健康増進器材の販売
- ●栄養・運動等のコンサル業務
- ●健康管理事業の企画、実施
- ●工業薬品・脱臭剤の販売

家庭用常備 薬品等の斡旋



女性のみの



AMANO GROUP

冊子に掲載しきれなかった情報

株式会社アマノ ●アマノドラッグチェーン他

祉人材研修センター や最新のお知らせは、

木

「兵庫県福

をご覧ください。

- 天野エンザイム株式会社 ●医薬用・食品・工業用酵素剤の製造販売
- 天野商事株式会社 ●天野チェーン発売元



大阪市中央区博労町二丁目6番7号 (大バスビル心斎橋9階) TEL:06-6251-0990